

平成 22 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19330101
 研究課題名（和文） 宗教の社会貢献活動に関わる比較文化・社会学的研究
 研究課題名（英文） Comparative Culture and Sociological Studies of Socially Engaged Religions
 研究代表者
 櫻井 義秀（ SAKURAI YOSHIHIDE ）
 北海道大学・大学院文学研究科・教授
 研究者番号：50196135

研究成果の概要（和文）：社会貢献活動を行う宗教団体・宗教文化の特徴を比較宗教・比較社会論的視点から明らかにする調査活動を実施し、共生・思いやり・社会的互惠性・公共性の諸理念を形成することに宗教の果たす役割があることを明らかにした。その成果の一部は稲場圭信・櫻井義秀編『社会貢献する宗教』世界思想社、2009年で明らかにされ、分担・協力研究者たちの研究により、宗教と社会貢献の関連を研究する研究分野を宗教社会学に確立した。

研究成果の概要（英文）：We have conducted survey and field work of Socially Engaged Religions in Japan and overseas from the perspectives of Comparative religious and sociological studies, and then explained that such religious activities and institutions cultivates the sense of symbiosis, generosity, reciprocity, and public nature. Our efforts results in the publication, Keishi Inaba and Yoshihide Sakurai eds., *Socially Engaged Religions*, Sekaishissha, 2009 and other papers and presentations in academic as well as public sphere. Consequently, this theme has been accepted in the sociology of religion in Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 19 年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
平成 20 年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
平成 21 年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
年度			
年度			
総計	14,000,000	4,200,000	18,200,000

研究分野：社会学・宗教学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：社会貢献、互惠性、公共性、共生、宗教

1. 研究開始当初の背景

20 世紀後半は、宗教制度や教団、全体社会が世俗化する一方で、宗教復興現象や、また社会の一部が再聖化するという逆転現象が

見られた。1990 年代から現在まで、日本では、宗教に対する否定的な見方が顕著であった。宗教と社会の葛藤が大きく政治・社会問題化し、双方の衝突は、「カルト」や「宗教的過激主義」という概念で一般化された。彼等は、

自己や世界の救済を独特な思想で考え、解決の方策をめぐらしたあげくに社会と衝突した。

しかしながら、このような宗教と社会の葛藤的局面だけをクローズアップするメディア報道の陰で、社会問題の解決に貢献しようとする宗教活動が継続して行われている。先進国・途上国を問わず、国家や市場が十分果たし得ない教育・社会福祉的機能を既成宗教や新宗教の団体・制度が担っている場合が少なくない。ここでは、宗教的信念から発意された社会的活動を世俗社会が受容し、一般社会との葛藤が基本的に見られない。

このように考えると、「宗教の社会的貢献」と「宗教と社会との葛藤」は一見正反対の事柄であるが、実は表裏一体の関係にあるのではないと思われる。二つの問いを立ててみた。第一に、宗教集団や宗教運動による社会体制への批判と社会変革への動きが評価されるとすれば、どのような社会的条件・文化的条件の下で、既成社会が受容し、評価するものとなるのか。第二に、個人的自己実現や社会的自己実現が自己閉塞的にならずに社会的に開かれていくためには、どのような宗教的信念のあり方、他者との協同の仕方があるのか。これらの問いに対して、一般論ではなく、具体的な事例や社会的コンテクストをふまえて答えを探ることが求められていた。

2. 研究の目的

宗教の社会的貢献というテーマは、事例研究の解釈や評価に過剰な期待が先行しがちな領域である。また、宗教者や教団は貢献したいという意志と善意に重きを置き、結果や効果の評価に甘い傾向がある。社会には個人や集団の意図せざる結果が発生する創発性がある。研究代表者と分担研究者は、宗教と社会の葛藤的局面や協同する事例を調査してみてもこのことを実感していた。

そこで、われわれは、「宗教の社会貢献活動研究」を組織的に調査するプロジェクトを「宗教と社会」学会内で発足させ、20名あまりの共同研究者をえて研究会を重ねた。

本研究の目的は、日本を含めたアジア社会と西欧社会におけるキリスト教、神道、仏教（上座・大乘）、ヒンドゥー教、イスラーム等の伝統宗教と、新宗教による社会事業を、それぞれの社会的文脈で評価しながら、宗教集団や宗教者による社会貢献の可能性を検討することにあった。

3. 研究の方法

分担研究者・研究協力者がそれぞれの領域において進めていくが、1. 西欧とアジア、日本という比較の視点 2. 歴史宗教と新宗教・宗教運動という比較の視点を生かす。

研究領域と担当者

	キリスト教	仏教（上座・大乘、仏教運動）	イスラーム	民族宗教（民俗宗教、ヒンドゥー、神道等）	新宗教
西欧	土屋博，稲場圭信，石川明人，石川智子	稲場圭信	栗津賢太	葛西賢太	稲場圭信
アジア	土屋博，岡光信子，李賢京	櫻井義秀，大谷栄一	新井一寛	岡光信子	李賢京
日本	土屋博，濱田陽，中西尋子，木村恭子，松島公望	大谷栄一，藤田庄市	葛西賢太	櫻井治男，藤本頼生，藤田庄市，黒崎浩行	小池靖，永井美紀子，葛西太，栗津賢太，櫻井義秀

事例研究とその相互比較検討の方針は次のようなものとした。

- 1) 事例研究を先行させ、事例の相互検討を通じて、比較の視点を練り上げていく。
- 2) 諸事例の比較項目は次の諸点となる。
 1. 宗教文化伝統（宗教的利他心、互助の精神、社会の共同性に関わる教えの次元）
 2. 宗教制度・組織（教えを実践する組織体・信者組織の階梯制・運営方法の次元）
 3. 社会事業・福祉事業（宗教的救済の理念を社会に展開する活動の次元）
 4. 宗教・社会運動（社会形成に積極的に参画する運動の次元）
 5. 社会・歴史的コンテクスト（宗教制度・団体・運動・事業を許容する社会の次元）
 6. グローバル社会への対応（当該地域を越えた活動の展開・可能性の次元）

4. 研究成果

4-1 概況

本研究では、当初設定した研究課題に係る各人の調査研究を推進すると共に、本テーマに関連した研究を進める研究者のネットワ

ーク作りや、宗教者・一般の方を対象とした「宗教の社会貢献」を啓蒙普及することをも実践的課題としてきた。その結果として、3年間の活動により、研究会参加者は40名を超え、年度ごとの活動報告にも示したとおりの学会活動に加えて、財団法人「国際宗教研究所」主催の公開シンポジウム「宗教の社会貢献はどうあるべきか—二一世紀の課題—」（大正大学、2009年2月29日）にも研究メンバーが参加するなどして、宗教の社会貢献に対する関心を盛り立てることに力を尽くした。

4-2 年度ごとの研究成果（研究会・学会） [平成19年]

1) 研究会の開催。2007年5月22日、8月7日、11月23日、2008年3月22日の3回にわたり研究会を行った。分担研究者4,5名が研究計画・構想を発表し、研究協力者を中心に話題提供を行った。

[平成20年]

1) 研究会の開催。2008年6月1日、9月6日、11月14日、12月27日、2009年3月21日の3回にわたり研究会を行った。
2) 「宗教と社会」学会においてテーマセッション「宗教の社会貢献活動—基礎論構築をめざして」を行った。（2008年6月15日南山大学、名古屋市）
3) 日本宗教学会において、各地の諸宗教による社会貢献活動のテーマセッション4部会を編成することができた。（2008年9月15日、筑波大学、つくば市）
1. 「仏教者の信仰主体と社会的具現—タイ・日本における社会貢献—」
2. 「現代日本における地域活動と宗教文化の活用—神道と福祉の接点—」
3. 「宗教者は社会にどのように向き合ってきたか」
4. 「現代社会における宗教の社会貢献—海外における宗教の社会参加—」

[平成21年]

1) 研究会の開催。2009年7月2日、2010年2月6日。
2) アメリカ宗教学会においてReligious Initiatives and Social Activism in Contemporary Japanのセッションをもった。Palais des Congrès de Montréal, November 8, 2009, Montréal, Canada.
3) 成果の刊行。稲場圭信・櫻井義秀編『社会貢献する宗教』世界思想社、2009年12月
目次は次の通りである。はじめに 櫻井/
1 宗教に社会貢献がなぜ問われるか 櫻井/
2 宗教的利他主義の可能性 稲場/
3 宗教は和解を促せるか（文明間の相剋） 濱田/
4 神道 神社神道と社会貢献の動向 藤本/
5 仏教 法華系教団と社会変革運動 大谷/
6 情報化社会における宗教の社会貢

献 黒崎・吉野・寺沢/7 宗教団体による社会貢献調査 吉野・寺沢/8 各教団の社会貢献活動 約20教団1頁ずつ・解説 猪瀬/
瀨/

4-3 今後の課題

孤立化・無縁化する人々と国政への過剰な期待/落胆を強める現代において、個人と国家の中間領域（市民社会）において人々の絆を維持すること、社会への信頼性を高めることは喫緊の課題である。「新しい公共」といったところでその価値を涵養する社会組織や機会創出を誰が行うのか、どのように行うのか、経験に基づいた議論がなければ画餅となる。

「宗教の社会貢献」という研究課題には、宗教は社会に貢献できるという予見、貢献すべきではないかという当為論を前提としているために、宗教と社会の関連を分析する純粋な学問として問題があるという指摘は依然としてある。しかしながら、現代宗教の課題、宗教者に投げかけられた課題、研究者の社会的責任といったものを考えたときに、宗教団体・宗教文化が現代社会に必要な公共性・互恵性・共生/思いやりの感覚を具体的な社会空間（家族・地域・教団組織・社会運動）に形成しつつあるという事実を直視し、社会提言型研究をなすことも必要であると考える。

しかしながら、日本は戦後厳格な政教分離原則にたつ政教関係を歴史的に形成してきたゆえに、公共空間に宗教が参画することの意義・問題点を正面から議論することを回避してきた。宗教の社会的役割を論じることを躊躇した結果、過剰な宗教忌避感・タブー視・無関心が生じ、適切に宗教と社会との関係を扱えない状況が生じている。私たちはこのような状況を研究活動により変えていくべく学問に軸足を置いた実践的な研究スタイルを構築しようとしてきた。

まずは研究の方向付けを行うに足る研究成果をあげたので、今後はアカデミズム、現場の宗教者、宗教と関わりを持たないことを自認する一般市民、それぞれに向けた研究成果を発信することで、宗教が適切に社会に関われない状況を改善できる状況を作り上げていこうと考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 63 件）査読誌のみ掲載

① 櫻井義秀、キャンパス内のカルト問題—学生はなぜ摂理にはいるのか、高等教育ジャーナル—高等教育と生涯学習、査読有、15

- 号、2007、1-13
- ② Yoshihide Sakurai, Conflict Between Aum Critics and Human-Rights Advocates in Japan, *Cultic Studies Review*, 査読有、7-3、2009、254-278
 - ③ Yoshihide Sakurai, Conflict Between Aum Critics and Human-Rights Advocates in Japan, *Cultic Studies Review*, 査読有、vol.7, No.3、2009、254-278
 - ④ 櫻井義秀、東アジアにおける冥婚文化の比較研究—日本からの視点、東 Asia 宗教文化研究、査読有、創刊号、2009、221-247
 - ⑤ 櫻井義秀、『宗教』と『カルト』のあいだ、宗教研究、査読有、361号、2009、165-190
 - ⑥ 葛西賢太、救世軍の山室軍平と禁酒運動—自助努力、社会事業、宗教的救済のはざままで、駒沢大学心理学論集、査読有、10巻、2008、1-10
 - ⑦ 葛西賢太、アルコール依存からの再生—断酒自助会 AA の機関誌に見る「回復」体験談、死生学年報 2008、査読有、4巻、2008、1-28
 - ⑧ 葛西賢太・徐淑子、リカバリー・ダイナミクス・プログラム日本導入の意義と可能性—AA プログラムとの共通点・相違点を検討しながら、日本アルコール関連問題学会雑誌、査読有、10号、2008、83-88
 - ⑨ 葛西賢太、文化資源としての語り—相互扶助を越える Alcoholics Anonymous の意義、キリスト教文化研究、査読有、7号、2009、1-10
 - ⑩ 葛西賢太、オックスフォードグループ運動における〈心直し〉の実践とその意義、宗教研究、査読有、361号、2009、97-120
 - ⑪ 葛西賢太、現状復帰ではなく「回復」—Alcoholics Anonymous の目指すもの、全人的医療、査読有、10巻、2010、13-20
 - ⑫ 葛西賢太、死者を代弁して語ること、死生学年報、査読有、2010、1-20
 - ⑬ 高尾賢一郎、シリアの最高ムフティー、アフマド・クフターローのスーフイズム理解—「頑迷固陋ではないイスラームの再構築」に向けた取り組み、イスラーム世界、査読有、72号、2009、97-122
 - ⑭ 大谷栄一、「近代仏教になる」という物語—近代日本仏教史研究の批判的継承のための理路、近代仏教、査読有、16号、2009、1-26
 - ⑮ 岡光信子・山下博司、現代タイにおける伝統舞台劇「ラーマキエン」と文化行政—バンコクとナコーン・シー・タンマラートの文化省教育機関での調査をもとに、東方、査読有、24号、2009、161-173
 - ⑯ 藤本頼生、内務官僚吉田茂の神社観—神社神道と社会事業との関わりから、神社本庁教学研究紀要、査読有、13号、2008、

89-144

- ⑰ 藤本頼生、都市における環境政策と社会運動の一考察—千年の森づくり運動を例に、Open Forum、査読有、No.4、2008、230-231
 - ⑱ 藤本頼生、子育て支援と境内地の活用—神道の福祉の実現の場としての神社の可能性、國學院大學研究開発推進機構伝統文化リサーチセンター紀要、査読有、1号、2008、17-32
 - ⑲ 藤本頼生、神社の祭日変容をめぐる現状と課題—祭礼日の近現代、國學院大學研究開発推進機構伝統文化リサーチセンター紀要、査読有、2号、2010、113-128
 - ⑳ 吉野航一、宗教の土着化における信者たちの宗教実践—沖縄本島都市部を事例に、現代社会学研究、査読有、21巻、2008、39-56
 - ㉑ 吉野航一、沖縄における浄土真宗—真宗大谷派真教寺と真宗光明団を事例に、次世代人文社会研究、査読有、4号、2008、273-290
 - ㉒ 李賢京、韓国の宗教市場と日本の新宗教—韓国創価学会を事例として、日本近代学研究、査読有、10号、2008、25-47
 - ㉓ 李賢京、日本における韓国プロテスタント教会の展開—純福音教会を中心として、現代社会学研究、査読有、10号、2008、1-19
- [学会発表] (計 88 件) 国際学会のみ掲載
- ① 櫻井義秀、信教の自由というリスク、第 4 回日韓宗教フォーラムテーマセッション、2007 年 8 月 20 日、岡山県浅口市公民館、浅口
 - ② 櫻井義秀、現代社会と宗教、第 4 回日韓宗教フォーラムテーマセッション、2007 年 8 月 21 日、岡山県浅口市公民館、浅口
 - ③ Yoshihide Sakurai, Cult Problems in Modern Day Japan, International Symposium on Cultic Studies, December 7, 2008, WooZou Guest House Hotel, Shenzhen, China
 - ④ Yoshihide Sakurai, Thai Studies in Japan (Sociology); Globalization and Regional Social Change, International Conference of Thai Studies 10th, January 9, 2008, Thammasat University, Bangkok, Thailand
 - ⑤ Yoshihide Sakurai, Conversion as an Addiction to Relationships; the Setsuri Cult and Its Young and College-Student Followers, Annual Meeting of ICSA, June 27, 2008, Pennsylvania University, Philadelphia, USA
 - ⑥ Yoshihide Sakurai, Fragmented Society and the Popularity of Spiritualism in Japan 1990-2000, Meeting of International Society for the Sociology of Religion, July 25-31, 2009, Santiago de

- Compostela, Spain
- ⑦ Yoshihide Sakurai, Mission Strategies and Organizational Structure of the Unification Church: From the Perspectives of Globalization and Management Strategy, Meeting of International Institute for Asian Studies (IIAS), August 11-14, 2009, National Museum of Ethnology, Osaka
- ⑧ Yoshihide Sakurai, Financing Japanese Religious Corporation: Comparison among Buddhist Temple, Shinto Shrine, and Christian Church, FINANCING OF CHURCHES AND RELIGIOUS SOCIETIES IN THE 21st CENTURY, Ministry of Culture of The Slovak Republic Institute for State-Church Relations, 14-15 October 2009, Hotel Devien, Bratislava, Slovakia
- ⑨ Yoshihide Sakurai, Management Crisis and Social Activities of Local Buddhist Temples in Japan, Annual Meeting of American Academy of Religion, November 9, 2009, Congress Hall, Montreal, Canada
- ⑩ Keishin Inaba, How Buddhist NGO Networks Bring Religion to Society, Annual Meeting of American Academy of Religion, November 9, 2009, Congress Hall, Montreal, Canada
- ⑪ 稲場圭信, Altruism, Religion and Implicit Spirituality in Japan, International Academic Interchange Meeting between the Graduate School of Human Development and Environment, Kobe University and The Institute of Education, University of London: The Contribution of Universities to Civil Society, 2007年12月13日、神戸ポートピアホテル、神戸
- ⑫ 稲場圭信, Faith-Based Social Services in Japan, Society for the Scientific Study of Religion (SSSR), 18 October 2008, The Seelbach Hilton Louisville, Kentucky, USA
- ⑬ 稲場圭信, Altruism and Spirituality in Japan, The Third Conference of the Asia Pacific Network for Moral Education, 20 April 2008, Beijing Normal University 北京師範大学, China
- ⑭ Inose Yuri, The Current Battle over Sex Education in Japan, Women's World 2008, 2008年7月4日, Complutense Univ, Madrid
- ⑮ 猪瀬優理, 東アジアにおける宗教とリプロダクション, 東アジア宗教文化学会, 2008年8月3日, 東西大学, プサン, 韓国
- ⑯ 猪瀬優理, 民族学校教員家族の先祖祭祀(3), 東 ASIA 宗教文化学会第1回国際学術大会, 2009年8月17日, 北海道大学
- ⑰ 大谷栄一, 戦争は罪悪か?—20世紀初頭の日本仏教における非戦論, 第21回国際佛教文化学術会議「仏教と平和」, 2009年10月17日, 圓光大学, 韓国
- ⑱ Kenta Kasai, Chonaikai: Neighborhood Association to facilitate Japanese modernization, Development between the Traditional and the Modern: The Egyptian and Japanese Experiences, 2008年10月12日, Cairo University, Egypt
- ⑲ 葛西賢太, 道徳再武装運動と心直し, 東アジア宗教文化学会, 2009年8月17日, 北海道大学
- ⑳ 菊池結, 近代(東アジア)における宗教と社会活動—渡辺海旭をめぐって, 日韓次世代フォーラム 2009年6月, 大正大学
- ㉑ 高尾賢一郎, Religious Dialogue of Contemporary Islam: A Case with Oomoto, a Shinto Order in Japan, The 7th International Conference of Asian Federation of Middle East Studies Associations, 2008年9月6日, National University of Mongolia, Ulanbator, Mongolia
- ㉒ 玉置充子, 東南亜華人的民間信仰: 以泰南華人的林姑娘信仰為例, 世界海外華人研究学会第6回国際會議, 2007年9月22日, 北京大学, 北京
- ㉓ 玉置充子, 潮州地方の無縁死者供養とタイ華人社会における変容, 東 ASIA 宗教文化学会第1回国際学術大会, 2009年8月17日, 北海道大学
- ㉔ 森葉月, 現代社会における伝統宗教の可能性—岩倉政治の「脱宗教」思想を中心に—, 日韓宗教研究 FORUM 第4回国際学術大会, 2007年8月20日, 浅口市金光公民館, 浅口
- ㉕ 吉野航一・寺沢重法, 宗教の社会貢献活動に関する基礎的研究—メディア報道と札幌市の宗教施設へのアンケート調査を事例に—, 第5回日韓次世代学術フォーラム, 2008年6月21日, ソウル大学, 韓国

[図書] (計 27件) 単著・編著のみ掲載

- ① 櫻井義秀, 梓出版社, 東北タイの開発僧—宗教と社会貢献, 2008, 432
- ② 櫻井義秀, 新潮社, 霊と金—スピリチュアル・ビジネスの構造, 2009, 255
- ③ 櫻井義秀・三木英編, ミネルヴァ書房, よくわかる宗教社会学, 2007, 210
- ④ 櫻井義秀編, ミネルヴァ書房, カルトとスピリチュアリティ 現代日本における「救

- い」と「癒し」のゆくえ、2009、294
- ⑤ 櫻井義秀・稲場圭信編、世界思想社、社会
貢献する宗教、2009、248
 - ⑥ 稲場圭信、NHK出版、思いやり格差が日
本をダメにする～支え合う社会をつくる 8
つのアプローチ、2008、188
 - ⑦ 山下博司・岡光信子、東京堂出版、インド
を知る事典、2007、428

[その他]

ホームページ等

「宗教の社会貢献活動研究プロジェクト」
<http://keishin.way-nifty.com/scar/2009/06/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

櫻井義秀 (SAKURAI YOSHIHIDE)
北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：50196135

(2) 研究分担者

土屋博 (Tsuchiya Hiroshi)
北海道大学・名誉教授
研究者番号：30000607

櫻井治男 (Sakurai Haruo)
皇學館大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：00087735

稲場圭信 (Keishin Inaba)
神戸大学・発達科学部・准教授 (平成 22
年より、大阪大学・人間科学研究科・准教授)
研究者番号：30362750

黒崎浩行 (Kurosaki Hiroyuki)
國學院大學・神道文化学部・准教授
研究者番号：70296789

濱田陽 (Hamada Yo)
帝京大学・文学部・准教授
研究者番号：70389857

石川明人 (Ishikawa Akito)
北海道大学・大学院文学研究科・助教
研究者番号：90360875